

琉球大学学術リポジトリ

タケノコの栽培法

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山盛, 直, Yamamori, Naoshi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20851

タケノコの栽培法

缶詰タケノコや干タケノコ、ポリエチレン袋入りのタケノコなどの商品が店頭を飾り、或は食膳を賑わしているが、それらの殆んどが輸入品である。そこで新鮮なタケノコを安く大量に食用に供するために、是非食用タケノコの栽培を奨めたい。世界のタケノコの大部分がアジアの熱帯地方に分布生育しており、琉球でも全域に亘って良くタケが生育していて、タケの栽培に好地域と思われる。琉球に現存するタケで、食用に供えられるものは、数種類あるが特に美味で有望なものは、マチクとリョクチクである。その栽培法について記したい。



マ チ ク リョクチク

1 適地

排水の良い膨軟な壤土又は砂質壤土で、表土が深く

風当りの強くない所が適地と云えるが、一般的に地形の関係から考えると、表土の比較的深い山ふもとや、森林内の平地や風下地帯、河畔の堆積地、部落内の空地や屋敷内の空地等が適する地帯と云える。山腹の傾斜地を利用する場合は10~15度までの南向きの土地で防風林設置や土砂の流失防止策を講ずる必要がある。竹林経営上ある程度まとまった栽培面積を得られる所がのぞましい。

2 植付時期及び植付本数

さしつけによって増殖する方法もあるが、一般には母竹から株分けによる方法がなされている。タケの生理から考えると、株分けの時期は春期にタケノコとなる新しい芽が形成される時期と云うことになるが、沖縄では3月~4月が適期である。植付本数は10a (300坪) 当り50~60株植えが適当で5~6坪に1株宛植付ければ良い。

3 地拵え

森林内のいく分樹木のある所では、周囲の木は防風林として残し、内部の樹木も全て伐採せずに余り枝張りしない樹木を点存させておく。又傾斜地は等高線に沿って列状に樹木を残し、地表面を全裸にすることを避けて樹木の枝葉で地表を被ったり、日陰で良く育つような下草などは刈払わずに残した方が良く、雨水による土砂の流失を防止するためである。平地で労費のゆとりのある場合は全面開こんして竹株間に他の作物を栽培するとか マメ科の作物を植えて地力の増進を

図るようにする。労費のゆとりのない場合は植穴よりや、広めに掘り起す程度にとどめ翌年から次第に広めていくようにすれば良い。植穴は、直径1m 深さ60cm程度掘り起し、良く腐熟した有機質と表土を混ぜて入れ植付に備えておく。

4 植付法

マチク、リヨクチクは 普通母竹から株分した苗で増殖されている。株分けは3～4月に2年以内の生育の良いものを母竹から切り離すが、その際に芽の部分を損傷したり、根を切損せぬように注意して丁寧に掘り取る。一株になるべく2本の竹桿が付くようにした法が良い。括着率を高めると同時に成林を早めるためである。竹桿は側枝の着いた節を2～3節残して上部は伐り捨てる。遠くへ運ぶときはコモで丁寧に荷作りをする。

植付けは、植穴内に表土と良く腐熟した有機質を入れて混ぜ合せ、土中の枯れ草や石礫を除去する。竹苗が母竹に付いていた時よりも、深めに植付け 根と土を良く密着させ最後に固く踏みおさえ、地表に敷草を行い植付を完了する。竹桿の高いものには風でゆれ動かぬように支柱を施しておく。

5 手入れ

植付け当年は良く雑草が繁茂するので竹株の周辺は丁寧に除草を行い、出来得れば株間に農作物を間作して収入をあげると共に除草の労費が省け土質を改善に役立たしめるようにする。傾斜地では地肌が表われると雨水による表土流失が考えられるので、ひんぱんな

除草はさけ、樹木の枝葉や草を敷しておく、雑草の繁茂を防ぐと共に土中有キ質の増加に役立つ。

施肥は、根系の生長が盛んになる時期の3～4月頃とタケノコ発生が終了後の9～10月頃の2回に分けて行う。施肥量は土質土性等によって一概には云えないが、1回1株当たり推肥或は敷草20kg程度、速効性肥料(N-3 P-1 K-1)2kg程度を施す。 施し方は植付当年は、株の周囲に溝を掘り、その中に施肥し覆土をなすが、2年以後は株の周り全面に堆肥や敷草を敷き速効性肥料を均等に撒き土で覆う。竹桿は4～5年まで仕立てそれ以上の老竹は切り捨てる。

6 タケノコの収穫

マチク、リヨクチクは6月下旬頃から8月までタケノコが発生する。植付当年は殆んどタケノコの発生は見ないが、2年目は1株当たり4～8本発生する。2年目に発生したタケノコは収穫せずに残して成竹させ3年目から収穫を始める。良く手入れの行き届いた成林で1株当たり30kg程度の収穫が見込まれる。タケノコは伸び過ぎると食用に適さなくなるので、土中からタケノコの頂端部が表われた時に周りの土を掘り起して母竹との着根から切り離すが、その時に母竹に付いている新しい芽や細根を損傷せぬように注意する。最後に出るタケノコを1株に5～6本残して成竹させるようにすれば良い。

上記はタケノコ用のマチク、リヨクチクの栽培について略述したが、栽培が極めて容易であるので、自家消費用として屋敷の空地や畑の隅に少量でも各家庭が栽培することを望みます。 (山 盛 直)